



第2図 台風5916号に伴う停滞性エコー  
(沖縄のレーダーによる)

16号が沖縄付近を通過する際のレーダー・エコーで矢印のエコーは台風が沖縄の南方 240 km に達した4時頃か

ら沖縄の南東50 km に達した9時頃まで5時間程もほとんど同一地点で盛衰をくり返していた降雨群を示す。その機構についてはあまりよくわからないが、渦の回転速度と進行速度を合成した速度場は渦が進行する左側でずっと弱くなり、ことに寒気が西側へ入っている時はこの傾向が強いことから、台風進行の左前面に現われる降雨群は停滞性が強いといえよう。このことは降雨群が存在する地域には集中的豪雨をもたらしやすいことを示す。渦の回転があまり強くない示度 990~980mb 程度のしかも最盛期にある台風ではこのケースのような停滞性の大きい降雨群をその左前面に伴いやすいのではなからうか。

## 気象界消息

### 1. 第10回太平洋学術会議開かる

8月21日から9月2日までホノルルで第10回太平洋学術会議が開かれる。気象関係の出席者は

和達 清夫, 高橋浩一郎, 安井 正, 増沢譲太郎  
半沢 正夫, 荒川 秀俊, 杉浦 吉雄

の諸氏である。なお和達氏は太平洋学術会議と WMO, IUGG 共催の津波会議にも出席の予定。また杉浦氏は会議のあと、インド洋海洋観測の化学分析法基準化作業に関する会議に出席される。

### 2. 関口氏スイスに出張

「天気」編集委員の関口理郎氏は、スイスのアローザで開催される国際大気オゾンシンポジウムに出席し、さらにフランス、オーストリアの各国で気象研究上の諸問題について連絡協議のため8月3日から21日まで出張された。

### 3. 堀氏、菊地氏沖縄に出張

気象庁企画課堀清一航空気象班長は、8月12~13日、鹿児島空港分室長の菊地経武氏は8月12日に、全日空招待飛行参加をかね、沖縄気象台と航空気象業務打合せお

よび鹿児島沖縄間の気象調査のために出張された。

### 4. 人工気象衛星タイロス III 号

7月12日アメリカのフロリダ州ケープカナベラルで人工気象衛星 III 号が打上げられた。軌道下の巾約 2,000 km の地域の雲の写真がコード化されて世界各国に流された。軌道の高度は約 760 km, 地球を一週する時間は約 100分で軌道は地球赤道面に対し、約48度傾斜している。雲撮影用のカメラは、広角の TV カメラ 2 台で視野は 2,400 km<sup>2</sup> 位、画面の走査線の分解能は約 3 km の由。

7月20日頃から気象庁にも入電し初め、通報課調査係で調査していたが、8月14日から試験的に通報課現業でも解読プロットを初めた。